

新型コロナウイルスの影響により 依然として厳しい状況にある 生活衛生関係営業の景況

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2021年7～9月期）

（前回）新型コロナウイルスの影響により 依然として厳しい状況にある

<業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期からマイナス幅が2.2ポイント拡大し、▲55.8となった。
- 来期は、マイナス幅が20.0ポイント縮小し、▲35.8となる見通し。

<売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期からマイナス幅が8.3ポイント拡大し、▲51.3となった。
- 来期は、マイナス幅が11.7ポイント縮小し、▲39.6となる見通し。

<採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期からマイナス幅が0.1ポイント拡大し、▲51.9となった。

<経営上の問題点>（9、10ページ）

- 経営上の問題点は、「顧客数の減少」が最も多く、2020年4～6月期以降、80%前後の高水準で推移している。
- 「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」との回答割合が2期連続で上昇した。

※ 11ページ以降に業種ごとの業況判断理由を掲載しています。そのほか、本調査で収集した「経営取り組み事例」を日本公庫ホームページに掲載しています（https://www.jfc.go.jp/n/findings/seikatu_kekka_m_index.html）。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部

生活衛生情報支援グループ 担当：一ノ瀬、和知 TEL 03-3270-1653

【調査の実施要領】

調査時点	2021年8月下旬～9月上旬			
調査方法	郵送調査			
調査対象	生活衛生関係営業 3,290企業			
有効回答企業数	3,149企業（回答率 95.7%）			
（業種内訳）	飲食業	1,419 企業	映画館	62 企業
	食肉・食鳥肉販売業	156 企業	ホテル・旅館業	184 企業
	氷雪販売業	58 企業	公衆浴場業	113 企業
	理容業	428 企業	クリーニング業	262 企業
	美容業	467 企業		

【本調査における留意事項】

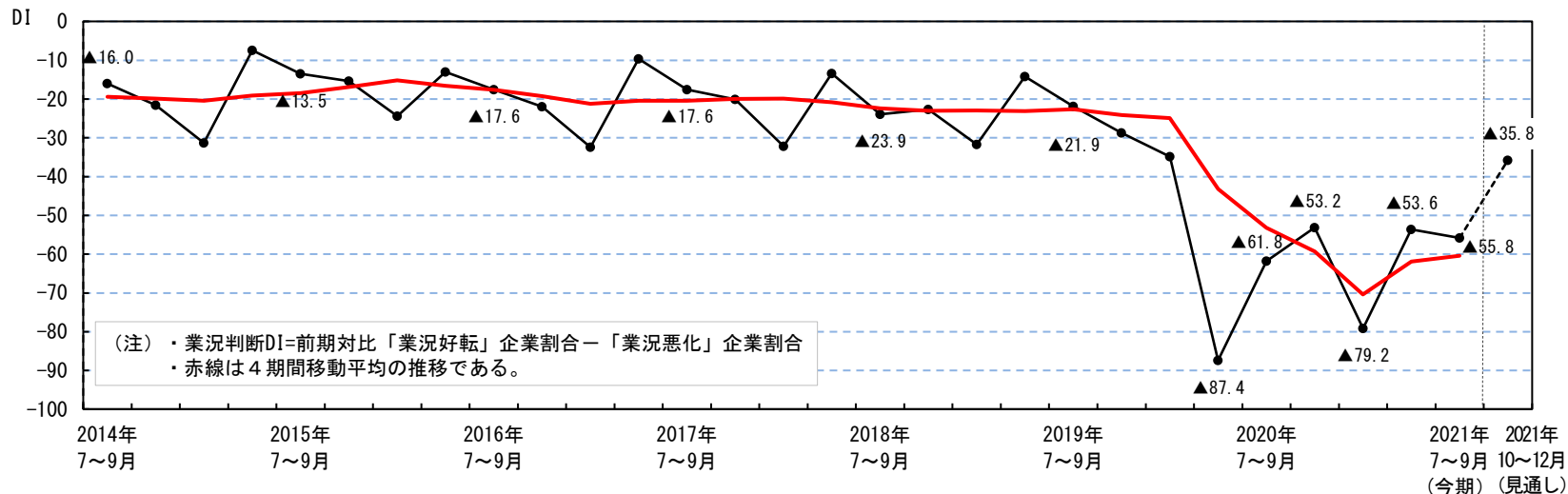
- 2016年4～6月期調査から沖縄県の企業を調査対象に加えている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期からマイナス幅が2.2ポイント拡大し、▲55.8となった。
- 来期は、マイナス幅が20.0ポイント縮小し、▲35.8となる見通しである。

図表1 業況判断DIの推移（全業種計）



図表2 業種別 業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (今期)	2021年 10～12月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲46.2	▲27.4	▲52.3	▲46.6	▲46.8	▲19.9
氷雪	▲67.3	▲80.4	▲96.4	▲74.1	▲70.7	▲50.0
理容	▲55.1	▲58.6	▲72.0	▲36.6	▲36.9	▲32.2
美容	▲57.8	▲60.0	▲71.3	▲41.4	▲42.2	▲26.1
映画館	▲42.6	▲8.8	▲84.7	▲52.4	9.7	▲21.0
ホテル・旅館	▲59.8	▲23.2	▲91.6	▲65.4	▲49.5	▲30.4
公衆浴場	▲50.0	▲45.1	▲44.0	▲49.1	▲40.7	▲31.9
クリーニング	▲84.0	▲58.4	▲87.6	▲22.0	▲74.8	▲44.7

図表3 飲食業 業況判断DIの推移

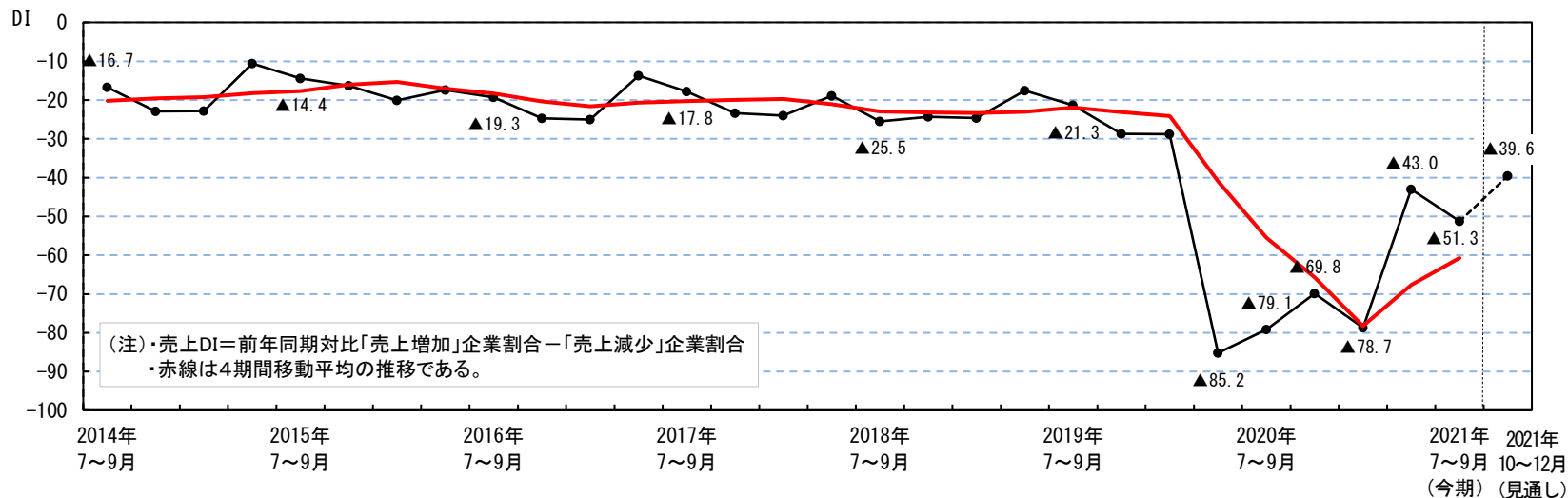
凡例	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (今期)	2021年 10～12月 (見通し)
飲食業(全体)	▲64.5	▲56.4	▲85.4	▲67.3	▲67.8	▲41.3
そば・うどん	▲42.5	▲36.9	▲82.7	▲49.1	▲61.1	▲39.4
中華料理	▲58.3	▲52.2	▲83.6	▲66.7	▲71.3	▲49.4
すし	▲67.0	▲60.4	▲84.9	▲69.3	▲70.7	▲37.9
料理	▲74.8	▲53.1	▲91.2	▲74.5	▲67.9	▲36.6
喫茶	▲70.7	▲52.1	▲79.5	▲49.7	▲62.0	▲40.4
社交	▲70.1	▲72.8	▲91.8	▲86.9	▲79.6	▲46.6
その他飲食	▲67.4	▲59.8	▲85.2	▲69.6	▲64.9	▲39.8

※ 表中の網掛けは、全業種計の割合を上回るものを表す(以下同じ)。

2. 売 上

- 売上DIは、前期からマイナス幅が8.3ポイント拡大し、▲51.3となった。
- 来期は、マイナス幅が11.7ポイント縮小し、▲39.6となる見通しである。

図表4 売上DIの推移（全業種計）



図表5 業種別 売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2020年 7~9月	2020年 10~12月	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月 (今期)	2021年 10~12月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲57.7	▲45.9	▲51.0	▲46.0	▲50.0	▲29.5
氷 雪	▲94.5	▲91.1	▲94.6	▲65.5	▲67.2	▲36.2
理 容	▲67.8	▲64.5	▲68.5	▲35.5	▲37.9	▲34.6
美 容	▲74.7	▲69.0	▲70.3	▲21.9	▲41.2	▲29.5
映 画 館	▲96.7	▲28.6	▲93.1	▲6.6	4.8	▲3.2
ホテル・旅館	▲88.1	▲68.3	▲93.8	▲29.9	▲45.4	▲34.4
公衆浴場	▲57.0	▲61.9	▲50.5	▲47.3	▲29.2	▲32.7
クリーニング	▲82.4	▲77.9	▲80.2	▲36.7	▲50.4	▲48.5

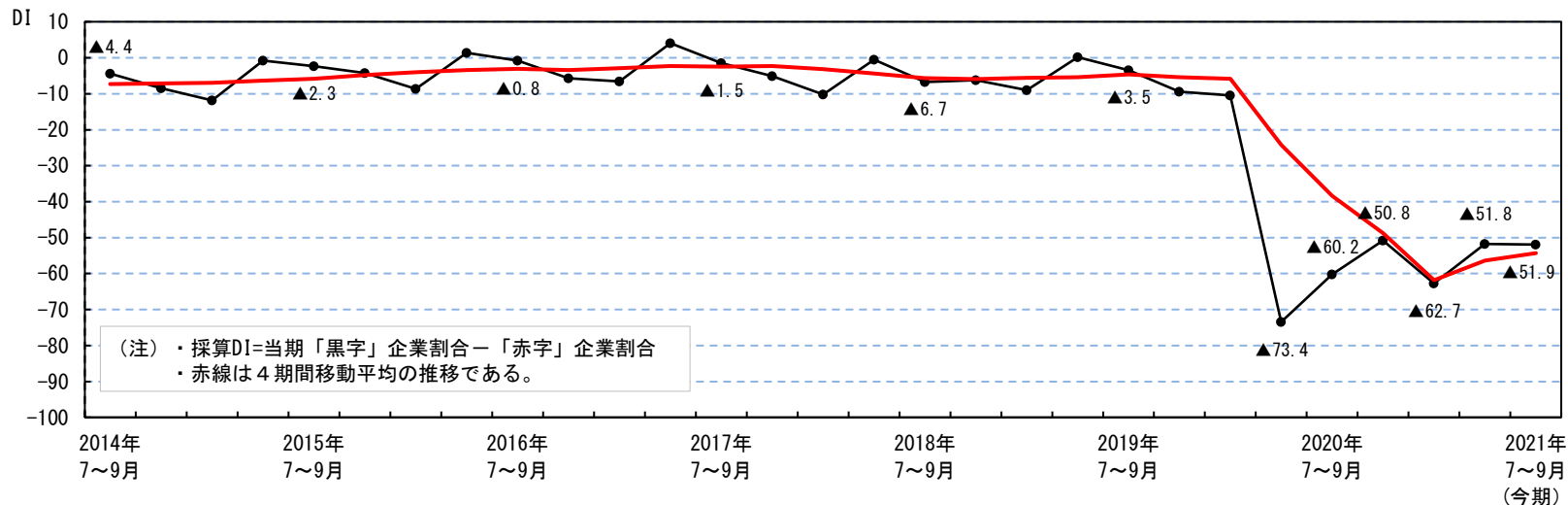
図表6 飲食業 売上DIの推移

凡例	2020年 7~9月	2020年 10~12月	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月 (今期)	2021年 10~12月 (見通し)
飲食業(全体)	▲85.0	▲74.5	▲86.3	▲55.0	▲63.3	▲46.7
そば・うどん	▲67.8	▲46.1	▲79.3	▲21.7	▲51.4	▲45.7
中華料理	▲82.8	▲74.5	▲79.4	▲53.9	▲65.0	▲51.9
す し	▲86.2	▲74.6	▲81.5	▲52.3	▲64.9	▲48.3
料 理	▲91.9	▲79.7	▲95.2	▲71.6	▲60.8	▲35.4
喫 茶	▲77.1	▲66.3	▲82.5	▲47.5	▲50.9	▲34.5
社 交	▲97.9	▲92.1	▲98.5	▲70.7	▲80.1	▲62.3
その他飲食	▲87.7	▲80.3	▲87.2	▲60.5	▲64.9	▲45.8

3. 採算

○ 採算DIは、前期からマイナス幅が0.1ポイント拡大し、▲51.9となった。

図表7 採算DIの推移（全業種計）



図表8 業種別 採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2020年 7~9月	2020年 10~12月	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲28.2	▲16.6	▲26.5	▲22.7	▲26.9
水雪	▲83.6	▲73.2	▲83.9	▲82.8	▲75.9
理容	▲39.5	▲31.4	▲37.9	▲20.8	▲18.5
美容	▲47.8	▲44.3	▲45.7	▲28.3	▲27.0
映画館	▲85.2	▲40.4	▲81.4	▲73.0	▲66.1
ホテル・旅館	▲86.0	▲61.3	▲88.8	▲84.6	▲78.3
公衆浴場	▲37.7	▲29.2	▲29.4	▲28.2	▲24.8
クリーニング	▲66.8	▲59.5	▲74.4	▲33.0	▲52.7

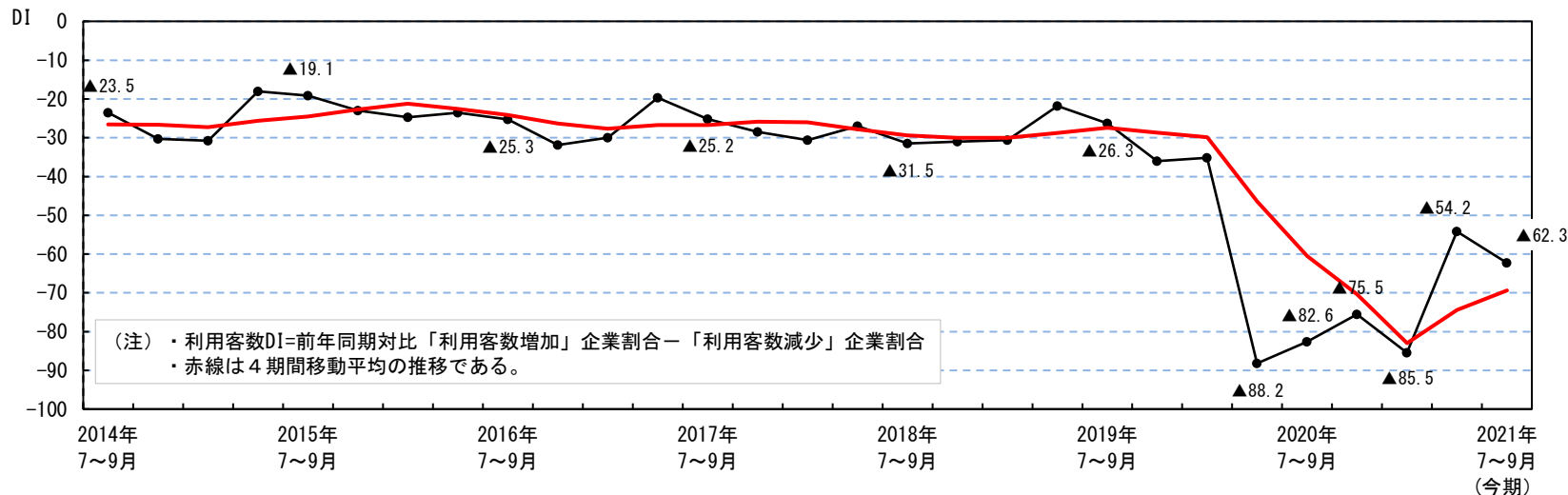
図表9 飲食業 採算DIの推移

凡例	2020年 7~9月	2020年 10~12月	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月 (今期)
飲食業(全体)	▲69.4	▲60.7	▲75.2	▲70.7	▲70.0
そば・うどん	▲49.7	▲33.5	▲62.6	▲52.0	▲52.6
中華料理	▲58.3	▲51.6	▲68.5	▲64.2	▲60.0
すし	▲69.8	▲56.0	▲70.4	▲67.0	▲75.9
料理	▲81.3	▲71.9	▲91.2	▲84.4	▲75.6
喫茶	▲60.5	▲52.7	▲68.3	▲52.8	▲56.6
社交	▲87.1	▲85.9	▲87.2	▲89.5	▲89.0
その他飲食	▲73.8	▲66.2	▲77.5	▲76.2	▲73.5

4. 利用客数

○ 利用客数DIは、前期からマイナス幅が8.1ポイント拡大し、▲62.3となった。

図表10 利用客数DIの推移（全業種計）



図表11 業種別 利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2020年 7~9月	2020年 10~12月	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲39.1	▲28.7	▲43.2	▲41.7	▲43.6
水 雪	▲94.5	▲89.3	▲94.6	▲86.2	▲82.8
理 容	▲73.5	▲68.8	▲75.8	▲42.3	▲45.8
美 容	▲82.5	▲82.8	▲81.9	▲40.8	▲54.7
映 画 館	▲96.7	▲39.3	▲93.1	▲3.3	6.5
ホテル・旅館	▲92.7	▲70.6	▲97.7	▲48.7	▲53.6
公衆浴場	▲64.0	▲66.4	▲62.4	▲53.6	▲46.0
クリーニング	▲88.5	▲85.5	▲92.6	▲46.2	▲71.4

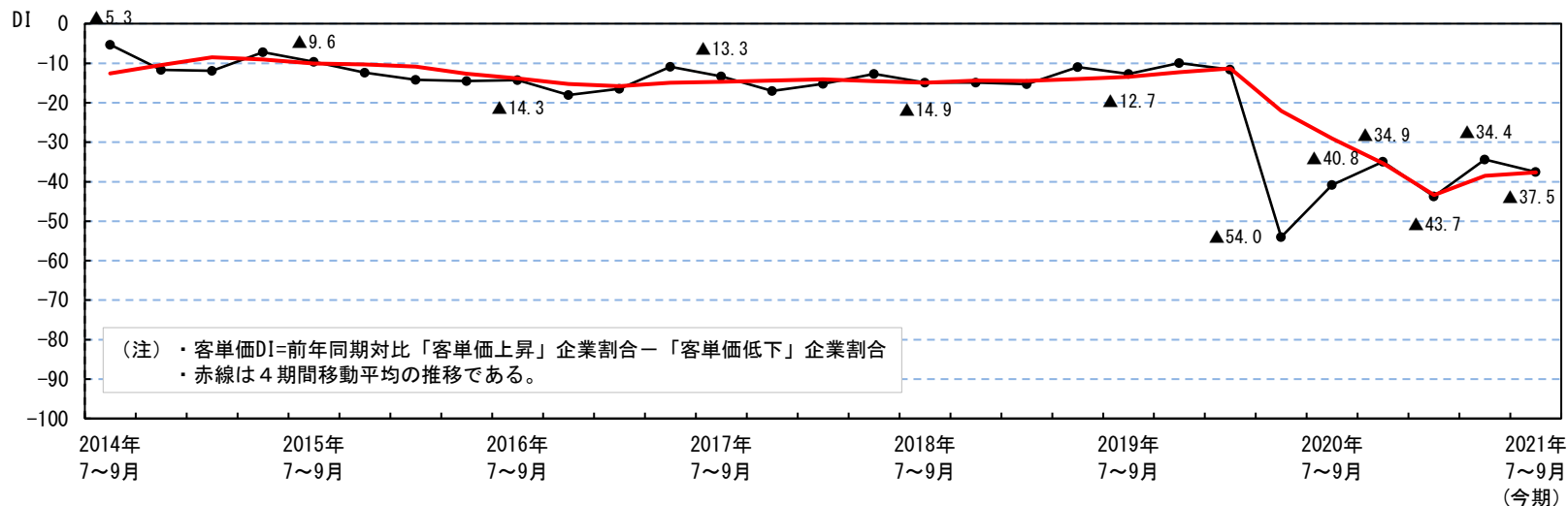
図表12 飲食業 利用客数DIの推移

凡例	2020年 7~9月	2020年 10~12月	2021年 1~3月	2021年 4~6月	2021年 7~9月 (今期)
飲食業(全体)	▲88.2	▲80.7	▲92.4	▲66.6	▲74.8
そば・うどん	▲70.6	▲60.7	▲87.7	▲43.4	▲64.6
中華料理	▲86.5	▲85.7	▲92.1	▲66.1	▲81.3
す し	▲90.1	▲79.6	▲92.1	▲72.2	▲75.9
料 理	▲91.1	▲82.0	▲95.2	▲70.9	▲73.1
喫 茶	▲84.3	▲74.1	▲85.6	▲54.3	▲62.4
社 交	▲99.0	▲96.3	▲99.0	▲81.7	▲89.0
その他飲食	▲91.3	▲82.9	▲93.2	▲70.4	▲74.9

5. 客単価

○ 客単価DIは、前期からマイナス幅が3.1ポイント拡大し、▲37.5となった。

図表13 客単価DIの推移（全業種計）



図表14 業種別 客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲34.6	▲35.0	▲37.4	▲33.7	▲39.7
水 雪	▲76.4	▲67.9	▲69.6	▲53.4	▲62.1
理 容	▲31.8	▲28.6	▲35.1	▲20.6	▲21.0
美 容	▲34.1	▲35.1	▲35.6	▲25.1	▲25.0
映 画 館	▲51.7	▲30.4	▲36.2	▲9.8	0.0
ホテル・旅館	▲47.5	▲15.6	▲44.1	▲40.6	▲32.8
公衆浴場	▲23.7	▲23.9	▲29.4	▲24.5	▲22.1
クリーニング	▲66.8	▲66.0	▲75.6	▲47.7	▲62.2

図表15 飲食業 客単価DIの推移

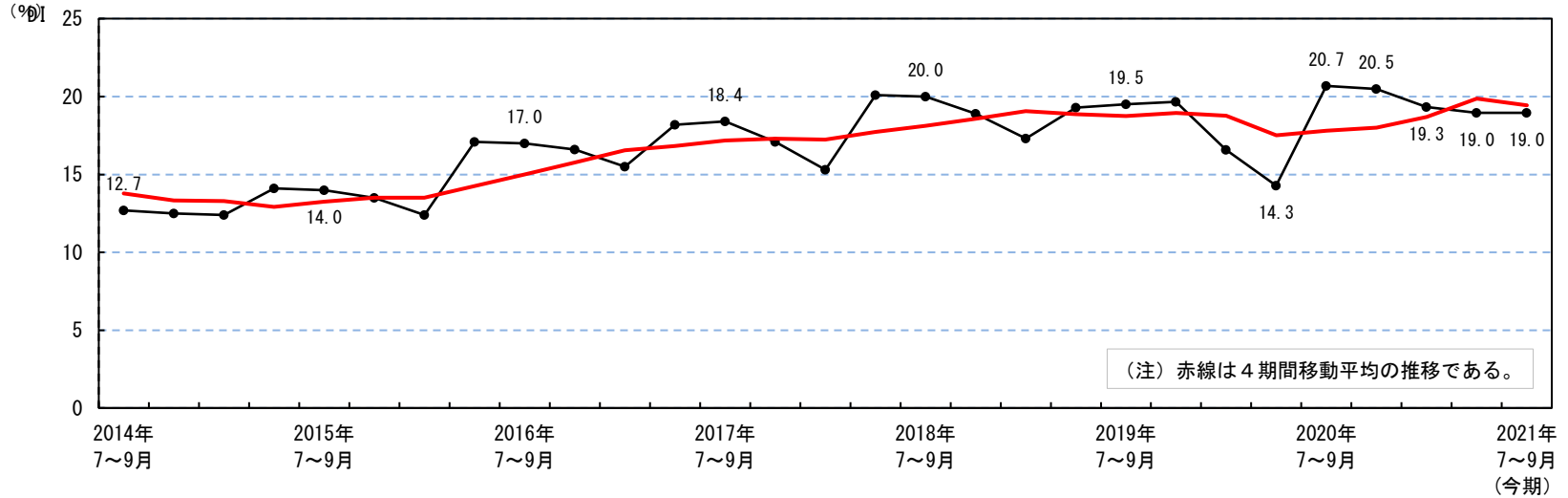
凡例	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (今期)
飲食業(全体)	▲40.4	▲33.2	▲44.2	▲39.3	▲44.2
そば・うどん	▲28.3	▲18.0	▲36.3	▲32.6	▲38.3
中華料理	▲41.7	▲38.5	▲48.5	▲43.0	▲46.9
す し	▲40.3	▲38.7	▲44.9	▲48.9	▲52.3
料 理	▲48.0	▲41.4	▲45.6	▲32.6	▲41.5
喫 茶	▲27.1	▲21.7	▲33.1	▲29.0	▲26.7
社 交	▲50.3	▲39.5	▲46.4	▲45.0	▲47.6
その他飲食	▲43.5	▲34.6	▲48.4	▲40.2	▲48.4

II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

○ 今期（2021年7～9月期）に設備投資を行った企業の割合は、19.0%となった。

図表16 設備投資実施割合の推移（全業種計）



図表17 業種別 設備投資実施割合の推移（飲食業を除く）

凡例	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (今期)
食肉・食鳥肉	24.4	27.4	27.1	30.1	25.6
水 雪	5.5	12.5	12.5	12.1	8.6
理 容	13.5	15.8	10.9	12.5	9.8
美 容	12.6	16.1	16.1	16.2	12.8
映 画 館	26.2	22.8	33.9	19.0	25.8
ホテル・旅館	52.5	42.0	48.3	35.6	44.6
公衆浴場	37.7	36.3	33.9	39.1	31.9
クリーニング	18.3	16.4	14.3	12.9	17.6

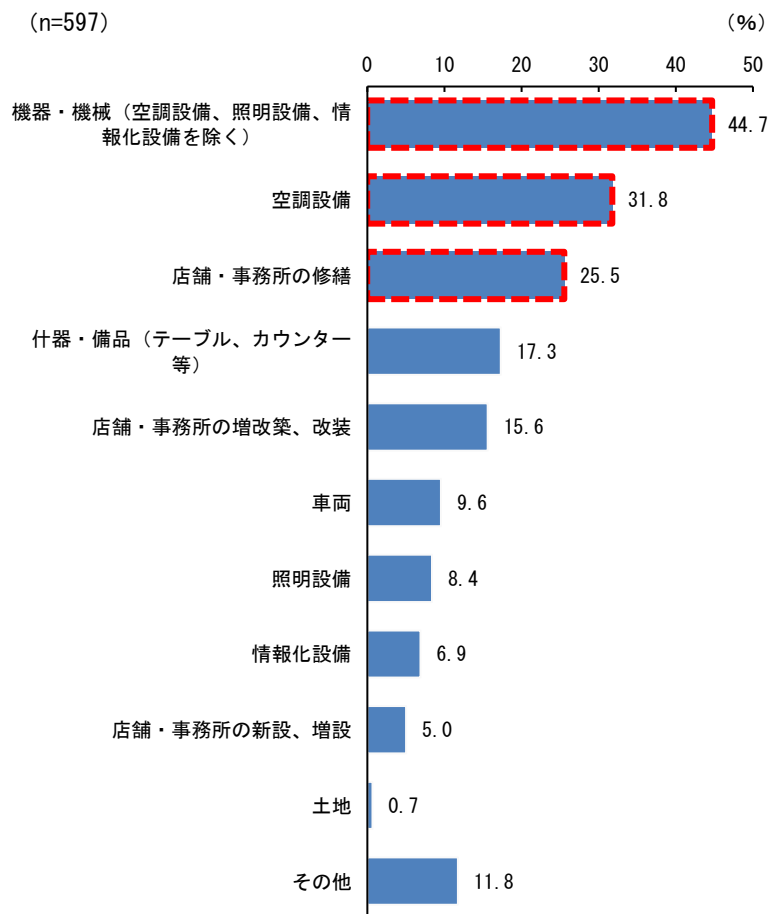
図表18 飲食業 設備投資実施割合の推移

凡例	2020年 7～9月	2020年 10～12月	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (今期)
飲食業(全体)	20.5	19.5	17.9	18.1	19.0
そば・うどん	18.2	17.3	16.8	21.1	21.7
中華料理	23.3	20.5	13.9	19.4	16.9
す し	24.2	18.7	21.2	18.2	15.5
料 理	19.5	21.9	22.4	19.9	19.8
喫 茶	19.2	19.2	21.7	12.9	13.9
社 交	15.5	15.2	11.8	12.6	17.8
その他飲食	21.9	21.9	18.4	20.3	22.5

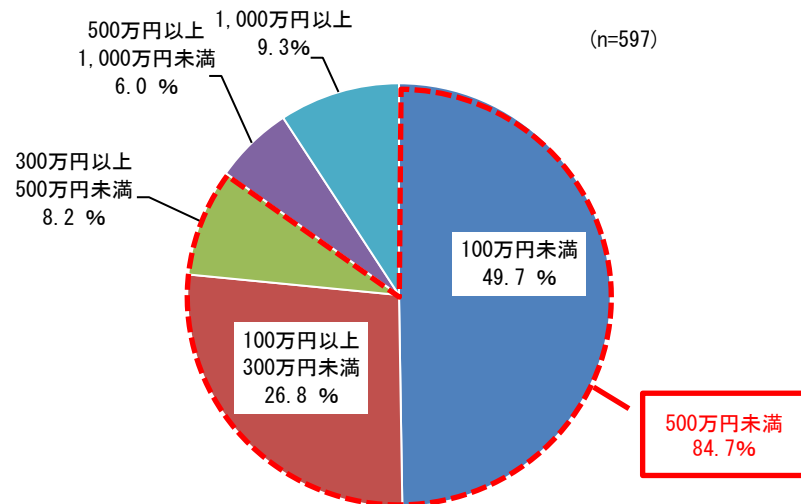
2. 設備投資の内容、設備投資金額、来期の設備投資計画

- 設備投資の内容は、「機器・機械（空調設備、照明設備、情報化設備を除く）」が44.7%と最も多く、次いで「空調設備」（31.8%）、「店舗・事務所の修繕」（25.5%）の順となっている。
- 設備投資金額は、500万円未満が全体の8割超を占める。
- 来期（2021年10～12月期）の設備投資計画については、「実施予定あり」が11.3%となっている。

図表19 設備投資の内容
(全業種計、複数回答(金額の大きい順に3つ以内))



図表20 設備投資金額（全業種計）



図表21 業種別 来期の設備投資実施予定割合
(飲食業を除く)

(%)

凡例	2021年 10～12月期の予定
全業種計	11.3
食肉・食鳥肉	17.9
氷雪	6.9
理容	5.1
美容	6.9
映画館	14.5
ホテル・旅館	32.6
公衆浴場	20.4
クリーニング	7.6

図表22 飲食業 来期の設備投資実施予定割合

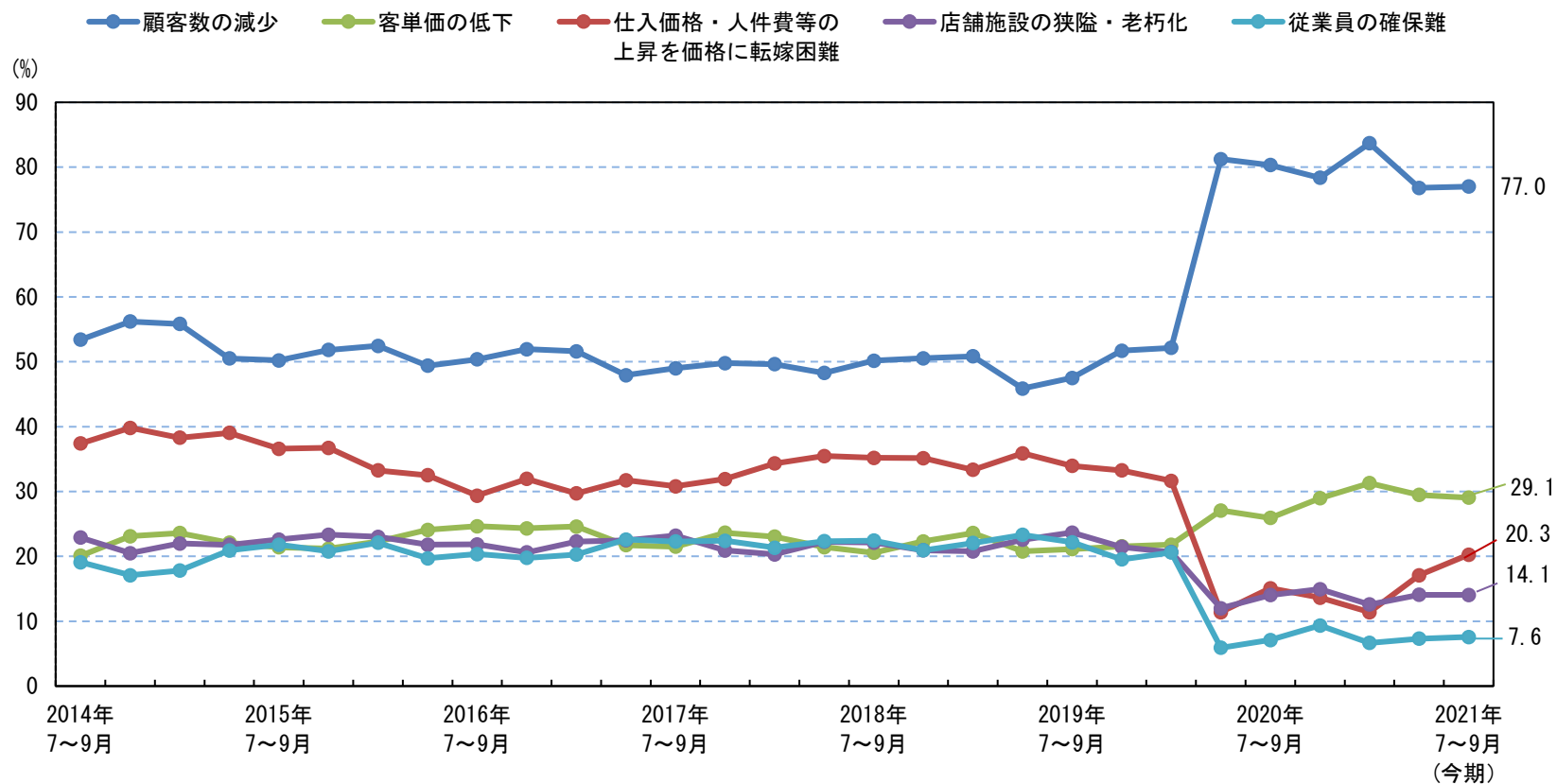
(%)

凡例	2021年 10～12月期の予定
飲食業(全体)	11.2
そば・うどん	15.4
中華料理	7.5
すし	8.0
料理	15.3
喫茶	7.8
社交	4.7
その他飲食	15.2

Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点は、「顧客数の減少」（77.0%）が最も多く、2020年4～6月期以降、80%前後の高水準で推移している。
- 「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」（20.3%）との回答割合が2期連続で上昇した。

図表23 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答（2つ以内））



図表24 業種別 主な経営上の問題点（2021年7～9月）

(%)

項目	顧客数の減少	客単価の低下	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	店舗施設の狭隘・老朽化	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
全業種計	77.0	29.1	20.3	14.1	7.6	4.4	3.5	11.6	5.0
飲食業(全体)	82.0	27.2	24.5	9.0	6.5	3.8	4.2	14.9	2.7
そば・うどん	77.1	24.6	38.3	10.3	10.9	4.0	1.7	8.6	4.0
中華料理	81.3	33.1	28.8	15.0	8.1	3.8	3.1	4.4	4.4
すし	82.2	32.2	22.4	4.6	3.4	6.9	1.7	17.2	4.6
料理	81.7	26.7	19.8	15.3	3.8	4.6	6.9	15.3	1.5
喫茶	79.5	19.9	36.1	11.4	6.6	4.8	3.0	8.4	2.4
社交	88.0	25.7	8.4	2.6	8.9	1.6	3.1	28.8	0.5
その他飲食	82.5	27.7	22.3	8.1	5.0	2.8	6.6	16.6	2.1
食肉・食鳥肉	44.9	26.9	50.6	22.4	8.3	5.1	1.9	3.8	7.7
氷雪	79.3	43.1	6.9	5.2	1.7	8.6	5.2	22.4	3.4
理容	69.4	26.9	7.2	15.7	7.7	7.0	0.9	11.2	11.9
美容	72.2	32.1	12.8	11.8	13.3	5.6	2.6	10.1	8.4
映画館	88.7	12.9	16.1	30.6	8.1	1.6	1.6	9.7	0.0
ホテル・旅館	86.4	22.8	15.2	24.5	9.2	3.3	9.2	10.9	1.1
公衆浴場	70.8	8.0	17.7	52.2	4.4	4.4	0.9	3.5	7.1
クリーニング	83.2	52.7	22.1	12.2	4.2	1.5	3.4	3.4	2.3

(注) 複数回答（2つ以内）のため合計は100を超える。

Ⅳ 業況判断理由

今期：2021年7～9月期 来期：2021年10～12月期

(1) そば・うどん

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	千葉県	7月は長雨と台風で客数が減少。8月からは緊急事態宣言で酒類が提供できず客単価が減少。苦しい状況が続いている。
	悪化	広島県	変異株の感染拡大で各種イベントの中止になったことに加え、観光客の団体予約や修学旅行の昼食利用の予約もキャンセルになるなど、大きな影響を受けた。
来期	好転	三重県	大阪府、愛知県等の緊急事態宣言が解除されれば、県内を訪れる観光客の増加が期待できる。店内の換気・消毒等の感染予防対策を強化するとともに、ホールスタッフを増員して対応する予定。
	不変	栃木県	緊急事態宣言の解除など来期は明るい材料もあるが、店内飲食の客足が回復するにはある程度時間を要すると思われる。当面はテイクアウト中心の店舗運営を継続していくつもり。

(2) 中華料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	滋賀県	ディナータイムの集客は依然として厳しいが、メニューの拡充に取り組んだ効果もあり、ランチタイムの売上は安定して推移している。
	悪化	埼玉県	できる限りの感染予防対策に努めているが、飲食店での会食に不安を感じるお客様は依然として多く、客足は遠のいたまま。
来期	好転	愛知県	ワクチン接種が進み、時短営業等の制限が解除されれば、人流増加による利用客の増加と酒類提供による客単価の上昇がダブルで期待できる。
	不変	北海道	来期は、ワクチン接種の浸透で外食需要の回復が期待できるが、10月から輸入食材等の値上げが予定されており、業況が好転するまでには至らないと考えている。

(3) すし

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	福岡県	ワクチン接種が進んで夜営業の時間帯の利用客が増え始めたが、緊急事態宣言の再発出・延長で酒類の提供に制限がかかった影響が大きい。ランチやテイクアウトで何とか繋いでいる。
	悪化	富山県	第5波の影響で県外からの観光客が減少したことに加え、時短営業や酒類提供の制限で常連客も減ってしまい、業況は悪化した。
来期	好転	宮城県	テイクアウトの売上は堅調に推移。10月のまん延防止等重点措置が全面解除されれば、紅葉・行楽シーズンに向けた県内外のお客様からの需要が期待できる。
	悪化	佐賀県	長雨の影響による野菜類の高騰に加え、10月からは他の食材や調味料の値上げも予定されており、業況はさらに厳しくなると見込まれる。

(4) 料理

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岐阜県	企業の利用は戻ってこないが、催事に伴う家族・親族の集まりなど、個人からの予約は増えてきており、前期や前年と比べれば改善してきている。
	悪化	大阪府	緊急事態宣言等が繰り返し発出された影響で、外食需要は極端に減ってしまったと感じる。テイクアウトにも取り組んでいるが、低価格の商品しか売れず業況は厳しい。
来期	好転	東京都	ワクチン接種の浸透で商談や出張等の企業の動きが活発化すれば、会食の機会も増加し、業況の好転が期待できる。
	悪化	長野県	時短営業や酒類提供の制限が緩和されても、5人以上の団体客の受入れは当面できず、企業の接待や職場内の会食等の自粛も続くようなので、業況はますます厳しくなると考える。

(5) 喫茶

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	高知県	ワクチン接種が進んだ効果で、外出による感染不安が薄らいできたと感じる。ランチタイムを中心に客足が戻りつつある。
	悪化	愛知県	変異株による感染拡大が続き、モーニングの営業時間帯における高齢者の来店が減少した。夜も時短営業のため、利用客が減少し、厳しい状況が続いている。
来期	好転	鹿児島県	ワクチン接種が進めば、人流が増加し、飲食店を利用する機会も増えてくると期待している。
	悪化	神奈川県	緊急時短宣言の解除されても、店舗周辺の企業ではテレワークを継続するようなので、客足の戻りが見込めない。

(6) 社交

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	青森県	今期は、地域の新規感染者数の減少に加え、ワクチン接種も進んだことで、常連客を中心に予約が入るようになってきた。
	悪化	大阪府	度重なる緊急事態宣言でまともな営業できていない。20時までの営業時間や、ノンアルコールやフードだけの提供では集客が難しい。
来期	好転	秋田県	今期は自主的に時短営業を行ってきたが、10月以降に緊急事態宣言等が全国的に解除されれば、通常営業を再開する予定。ワクチン接種が進むことで街に活気が戻ることを期待している。
	不変	沖縄県	ワクチン接種が進んでも、高齢者のお客様は酒席自体を自粛しており、緊急事態宣言等が解除されても、厳しい状況が続くと考えている。

(7) その他飲食

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	徳島県	ワクチン接種が進んだことで、高齢者の方の外出機会が増えてきていると感じる。観光地の近くにある当店への来店も増加している。
	悪化	山口県	変異株による急激な感染拡大を受け、地域の新規感染者も増加し、客足が遠のいた。特に、女性と高齢者の来店が減っている。
来期	好転	富山県	飲食店への営業制限が緩和されても、感染の不安は根強く、客足が回復するには時間を要すると考える。当面はテイクアウト中心の店舗運営を継続していくつもり。
	悪化	宮崎県	年末の外出需要の盛り上がりを期待したいが、当店周辺の企業では、職場内の会食を自粛する動きが継続しており、来期も業況の回復は見込めない。

(8) 食肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	茨城県	巣ごもり需要で小売部門は引き続き好調。卸部門においても、飲食店からのランチやテイクアウト用の注文が増えつつある。
	悪化	埼玉県	牛肉や豚肉の仕入価格が急激に上昇しており、利益が減少している。
来期	好転	愛媛県	ワクチン接種の浸透により新規感染者数が減少していけば、外出需要が回復し、当社の卸部門の業績も回復していくものと期待している。
	悪化	熊本県	取引先の飲食店において、廃業・閉店する先も増えている。加えて、食材・油等の値上げが予定されており、業況は厳しくなるばかり。

(9) 食鳥肉

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	兵庫県	7月は営業を再開する飲食店が増えて卸部門の注文も増えたが、変異株の感染拡大を受け、再び注文が激減した。厳しい状況が続いている。
	悪化	東京都	例年は大学の学園祭等のイベントで唐揚げ用の鶏肉の注文が増える時期であるが、今年はイベントの中止・縮小が相次ぎ、売上が落ち込んだ。
来期	好転	福岡県	来期は、飲食店への営業制限が緩和される見通しであり、卸部門の改善が見込める。小売部門においては、クリスマス等のイベントで需要増加が期待できる。
	不変	愛知県	緊急事態宣言等の解除とワクチン接種が進むことで、外食需要が回復することを期待したいが、感染リスクがゼロになった訳ではないので、業況が好転するまでにはしばらく時間がかかるものと考えている。

(10) 氷雪

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	北海道	地域の新規感染者数が落ち着き、天候にも恵まれたことから、飲料用やかき氷用の氷の需要が増加した。
	悪化	神奈川県	オリパラ需要に期待していたが、無観客開催となったことに加え、近隣で開催予定だった関連イベントもほとんど中止となり、まったく売上に結び付かなかった。
来期	不変	千葉県	緊急事態宣言等が解除され、飲食店の営業が再開できるようになっても、すでに廃業・閉店した店も多く、氷の需要がどの程度回復するか不透明な状況である。
	悪化	東京都	緊急事態宣言の解除後もリバウンド防止のため、飲食店への営業制限は続く見通しであり、取引先の居酒屋・BAR等からの注文増加は期待できない。

(11) 理容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	石川県	ワクチン接種が進んで感染への不安が解消されつつあることから、高齢者の方の客足が戻りはじめた。
	不変	宮崎県	カラーや白髪ぼかしの新メニューを希望するお客様が増えたことで、単価は前年より上昇した。その一方で、常連客の来店サイクルは長期化している。
来期	好転	山形県	ワクチン接種が進み、新規感染者数が落ち着けば、外出自粛ムードが収まり、理容に対する需要も回復していくものと期待している。
	不変	青森県	コロナ禍以降、営業日数を減らし、完全予約制で営業している。そのため、利用客数の増加は見込みづらいが、常連客に支えられ現状維持は可能である。

(12) 美容

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	岩手県	ワクチン接種が進んだことによる安心感から、少しずつ予約が増えてきている。カラー等の新しい技術をSNSで発信するなどして集客を強化していきたい。
	不変	新潟県	感染予防対策を徹底することでお客様の支持を得ているが、密を回避するために予約人数を制限しているため、売上は横ばいでの推移となっている。
来期	好転	鳥取県	ワクチン接種が進んで新規感染者数が落ち着けば、今まで我慢していた分、年末にかけて客足が伸びることを期待したい。
	不変	大阪府	固定客を確保できているため、一定の売上は見込めるが、結婚式等のイベント需要が低迷している影響で業績が伸び悩んでいる。

(13) 映画館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	東京都	新作の公開スケジュールが安定したこと、夏休みのアニメ作品が人気だったことにより、業況は好転した。
	不変	大阪府	前期や前年に比べ、動員は安定しているが、客席数の間引きや場内での飲食自粛などの影響が大きく、業況が好転するまでには至らなかった。
来期	好転	富山県	来期は、全世代でワクチン接種が進み、家族・友人・カップル等のグループ客が増えることを期待している。
	悪化	北海道	コロナ禍の影響に加え、動画配信サービスの普及により、客離れが懸念される。

(14) ホテル・旅館

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	山口県	ワクチン接種が進んだことで、高齢者の方からの宿泊予約が増えてきている。
	不変	和歌山県	県民限定の「Go To トラベル」の利用に支えられ7月は業況が好転したが、新規感染者数が増加した8月以降の予約は伸び悩んだ。
来期	好転	奈良県	12歳以上のワクチン接種が進んだことで、延期となっていた修学旅行の団体予約が入り始めている。
	悪化	埼玉県	10、11月の結婚式や各種イベント等の延期・中止が相次いでいる。加えて、テレワークやリモート会議が定着し、出張関連の宿泊予約も期待できない。

(15) 公衆浴場

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	好転	広島県	ワクチン接種が進んだことに加え、サウナブームに支えられ、高齢者や家族客が増えてきている。
	悪化	鹿児島県	変異株の感染拡大を受け、サウナ営業を中止した。サウナ目当てのお客様も多いため売上に響いた。
来期	好転	愛知県	秋から冬に向かう季節は、例年、利用客が増加する。来期は、ワクチン接種が進んだ効果も相まって業況が好転することを期待している。
	悪化	兵庫県	冬期は光熱費が上がるため利益が減少してしまう。緊急事態宣言等の解除で人流が増え、利用客が少しでも増えることを期待したいが、感染への不安は根強いいため、業況が好転するには時間を要するものと考えている。

(16) クリーニング

時期	業況	都道府県	判断理由
今期	不変	千葉県	個人向けの仕事はテレワークの普及等で落ち込みが続いているが、工場の作業服や病院の白衣等の法人向けの仕事は増えており、業況はトータルで横ばいといったところ。
	悪化	三重県	長引くコロナ禍の影響で個人・法人ともにクリーニング需要が縮小しており、3店舗の取次店を閉鎖した。
来期	好転	岐阜県	来期は、秋冬衣料への衣替えのシーズンにあたることに加え、緊急事態宣言等の解除に伴い、飲食店等からの仕事が増加することにも期待したい。
	悪化	山形県	テレワークの定着によりワイシャツやスーツなどの定番品の持込みが減少していることに加え、コロナ禍の影響で廃業・閉店してしまった取引先（飲食店等）も多く、来期の見通しも厳しいままである。